

平成 20 年 6 月 11 日

各 位

日金工鋼管株式会社

弊社におけるステンレス鋼管の検査証明書の不具合について

弊社はステンレス鋼管について、日本工業規格（JIS）等に義務付けられた試験・検査の実施状況を調査した結果、「耐漏れ試験」「水圧試験または非破壊検査」に関して、一部の製品で検査証明書の記載に不具合があることが判明いたしました。

その内容等につきましては、下記のとおりであります。適切な品質管理が求められるなか、一部の製品とはいえ、検査証明書の記載に不具合があったことを重く受け止め、再発防止に向けた取組を実施しております。

弊社として、本件について深くお詫び申し上げるとともに、お客様にこの状況を丁寧にご説明申し上げ、誠意をもって対応させていただくとともに、経済産業省をはじめ関係当局のご指導もいただきながら品質管理体制を見直し、再発防止と信頼回復に全力を傾注してまいります。

記

1. 調査結果

試験・検査記録のある5年間（平成15年4月～平成20年5月）について調査を行った結果、下記の通り一部の製品で検査証明書の記載に不具合があることが判明いたしました。

1) 配管用ステンレス鋼管（JIS G 3459）

総本数 3,130,642 本の内、平成 18 年 10 月～平成 20 年 5 月に出荷した一部の鋼管（44,415 本）について、JIS 規格に適合する非破壊検査の「渦流探傷試験」を実施しておりましたが、検査証明書に試験・検査項目として「水圧試験又は渦流探傷試験」と記載すべきところ、「水圧試験」とのみ記載しておりました。

2) 一般配管用ステンレス鋼管（JIS G 3448）

総本数 823,441 本の内、平成 16 年 12 月～平成 17 年 6 月に出荷した一部の鋼管（135 本）について、耐漏れ試験を JIS 規格に適合する「空気圧試験」で実施しておりましたが、検査証明書の記載が「水圧試験」のままとなっていました。

さらに、平成 18 年 10 月～平成 20 年 5 月に出荷した一部の鋼管（2,042 本）について、耐漏れ試験を JIS 規格に適合する「渦流探傷試験」で実施しておりましたが、検査証明書の記載が「空気圧試験」のままとなっていました。

2. 経緯

製品の試験・検査方法については、社内の品質管理委員会での審議項目として運用されていましたが、検査証明書の記載については明確な規定がありませんでした。このため試験・検査方法の変更時において、検査証明書の記載事項の変更に遅れが生じました。

以 上

本件に関するお問合せ先：日本金属工業株式会社 経営企画部 I R 室（電話 03-3345-5417）